



夜の動物園は8月11日～15日です。
開園時間を夜9時まで延長します。ぜひお越しください。

ASAHIYAMA Zoo

発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104

ホッキョクグマのハッピー、安らかに

昔、ハッピーの兄にあたるホッキョクグマ「コロ」が赤ちゃんの時、檻越しに父親に前足を食いちぎられる事故にあいました。その後、命をとりとめ、3本足のホッキョクグマとして15年以上も旭山で市民の皆さんに愛され、見守られて育ちました。実は、ハッピーも同様に幼い頃、父親に舌を食いちぎられるという事故にあっていました。その時に舌先の半分を失ってしまっていたのです。そのため、エサは他のクマの何倍もの時間をかけて食べたり

7月15日、ホッキョクグマのメス・ハッピーが息をひきとりました。前日の夕方、左前足が麻痺し、足を引きずりながら歩いていましたが、その後の経過をみる間もなく、次の朝に、ハッピーは死亡していました。原因については調査中です。

ハッピーが生まれたのは今から26年前のこと。旭山動物園の初代ホッキョクグマのペアから生まれました。旭山ですくすくと育ち、たくさんの人に愛されました。20才くらいまでは旧ホッキョクグマ舎（今のくもぎら・かびばら館）で過ごし、幼い頃は、丸太にじやれついで遊んだり、元気に泳ぐ姿をみせてくれました。5年前に今のほつきよくぐま館ができた時はイワンと一緒にプール側にいました。この施設ができ



苦難のいこえ...

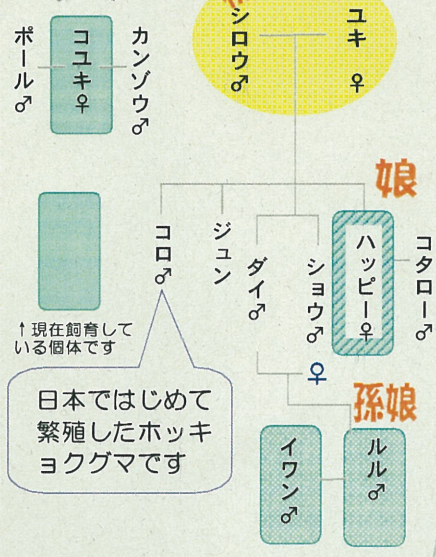
だ液をうまく飲めず常に口からたれていたりするなど、その後の生活に、大きな影響を及ぼしました。

ハッピーはこれまで何回かの出産を経験しています。けれど、うまく産まれた子どもたちが育つことはありませんでした。ホッキョクグマは、産まれた時は約300gと、とても小さく未発達な状態で生まれてきます。最初はウンチも自分でできません。そこで母グマは赤ちゃんのお尻をなめて、排便を促します。



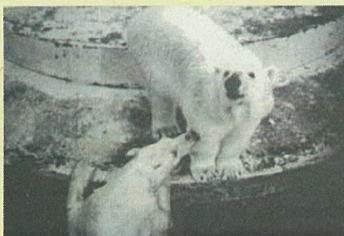
間近で見たときのあの迫力、忘れられません

旭山動物園 ホッキョクグマ 家系図



ウンチ、おしっこが出来ないと子どもは死んでしまいます。母になったハッピーには舌がありませんでした。赤ちゃんをなめてやることで出来たハッピーは、子どもを授けながらも、舌がないことが大きな原因で、子どもを育てることができませんでした。

旭山動物園で感謝をしつつ、あさひやまどうぶつえん旭山動物園では種の保存にさらに力をいれていきたいと考えています。



受け継がれていく、旭山の血

ハッピーは初代ペア、シロウとユキの最後の子でもでしたが、ハッピーが亡くなった今も、その血は引きつがれています。プール側にいる「ルル」です。ルルは初代の子でも「ダイ」の娘で初代からみると孫にあたります。旭山の血を引いたルルが、いつか子どもを産んでくれることに期待しています。それは、ペアのイワンが大人になるのは来年以降。元気な赤ちゃんを見られるのはもう少し先のことです。

たくさんの子孫を残し、アムールヒョウのビッグ大往生

同じ日に、もうじゅう館のアムールヒョウのビッグが老衰のため亡くなりました。20才でした。アムールヒョウの寿命は15年ほどといわれており、それをはるかにこえて、たくさんの子孫を残したビッグは大往生といえるでしょう。

ビッグは、先代のアムールヒョウ「サム」で叶わなかった繁殖の期待が寄せられ、一九八八年旭山にやってきました。その3年後には見事メスの「エイラ」との間に「サクラ」が生まれました。アムールヒョウは当時から数を減らしており、絶滅を心配される危機的な状況でした。そんなアムールヒョウの繁殖に成功したことはとてもうれしいことでした。この時、日本動物園水族館協会から日本の飼育下で初めて繁殖した動物におくられる繁殖賞を受賞しています。

神戸市王子動物園に旅立った「サクラ」が子どもを産み、その子どもが広島市安佐動物園で産んだ子どもが、今、旭山動物園にいる「アテネ」と「キン」です。この子たちはビッグのひ孫となります。

動物園の大きな役割の1つ「種の保存」に大きく貢献してくれたビッグに感謝をしつつ、旭山動物園では種の保存にさらに力をいれていきたいと考えています。



国内で初めてのアムールヒョウの赤ちゃん「サクラ」です